

令和7年度学校評価表

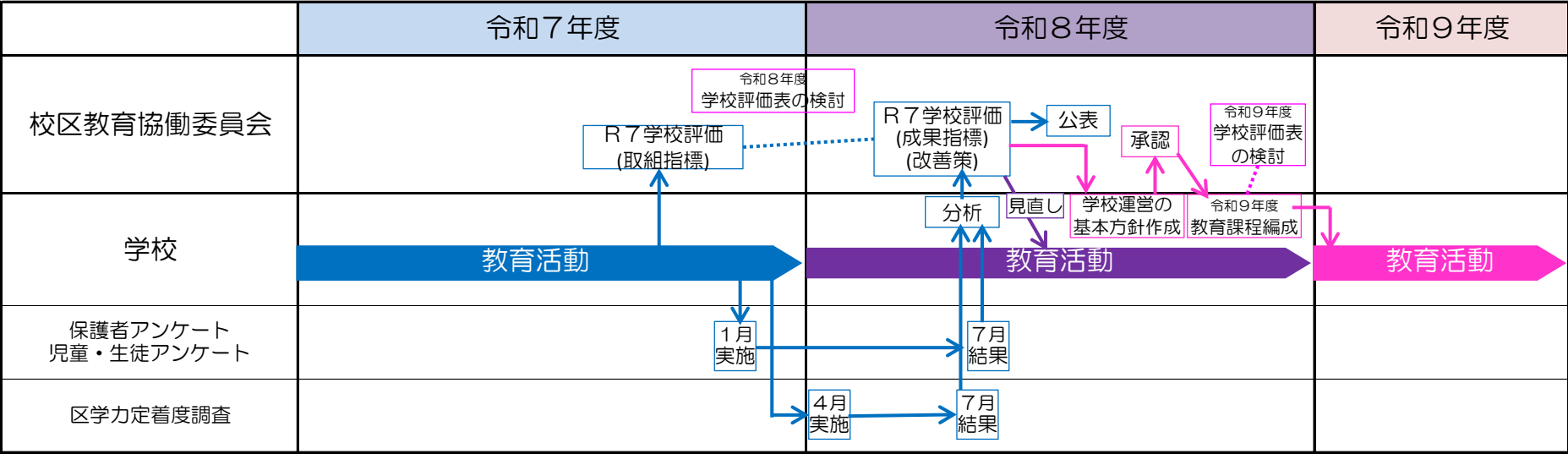
品川区立上神明小学校 校長 滝沢 二三雄・今福 ちか
上神明小学校校区教育協働委員会 委員長 古家 眞

校区教育協働委員会は、品川区校区教育協働委員会設置要綱（改正 令和5年3月24日 教育長決定 要綱第5号）に基づき、次に掲げる事項について、学校評価を行っています。

- (1) 学力に関すること。
- (2) 人間性や社会性に関すること。
- (3) 体力・健康に関すること。
- (4) いじめ防止の取組に関すること。
- (5) 特色ある教育活動に関すること。

学校評価を行う際、評価項目ごとに「成果指標」と「取組指標」を設定し、取組状況と取組によって表れた成果について把握しています。学校評価により浮き彫りになった学校の課題を委員会で共有し、改善策を考えました。学校評価の結果を公表するとともに、今年度の取組の見直しや来年度の教育課程の編成に生かしていきます。

学校評価の流れ（※令和7年度の学校評価が令和8年度および令和9年度の教育活動につながる部分のみ表記しています。）



令和7年度 学校評価 品川区立上神明小学校

評価項目1 学力に関すること

重点目標		○義務教育9年間を通して、主体的に学ぶことができる資質・能力を身に付け、それを活用できる力を育てる。 【基礎・基本の定着】 ・学力調査結果を分析し、基礎・基本の定着を図る。 ・上神スタンダードをもとにして、正しく学ぶ態度を身に付けさせ学習規律の徹底を図る。 ・児童の実態に合わせて、1人1台のタブレット端末を日常的に有効活用する。 【話し合い活動の充実】 ・児童同士が対話したり、協働して取り組んだりする活動の充実を図る。		
評価指標	最上段：成果指標	最上段：成果指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
	2段目以降：取組指標	2段目以降：取組指標の達成状況の説明		
①基礎・基本の定着	区学力定着度調査において、2年は区の平均正答率を上回る。3～6年においては、前学年時より区の平均正答率が上回る教科を増やす。	2年は国語・算数ともに区の平均正答率に届かなかったが、目標値とは同等の結果であった。3年は、前年度同様、算数が区の平均を上回った。(増減なし)4年は、前年度同様、全教科区の平均正答率に届かなかったが、国語、算数、理科が目標値と同等の結果であった。(増減なし)5年は、全教科区の平均正答率に届かなかった。(国語・算数2教科減)が、社会は目標値を上回り、国語、算数、理科は目標値と同等の結果であった。6年は、全教科区の平均正答率に届かなかった(理科1教科減)が、算数と英語は目標値を上回り、国語、社会、理科は目標値と同等の結果であった。	B	今回の結果から、設定した目標に届いていない学年もあったが、全体として区の平均正答率を大きく下回ってはいなかった。 今後、さらなる基礎・基本の定着を図るために、児童の実態把握を行い、授業展開のさらなる工夫を図ったり、児童一人一人に応じた指導・助言を行ったりする。また、継続して学習規律の定着を図り、また、タブレット端末をさらに有効活用できるよう、校内で活用方法を共有し、児童へのよりよい学習につながるようにする。
	学力の基礎・基本の定着を目指すために、学力定着度調査の分析を行い、個々の課題について把握する。そして、授業展開を工夫するとともに、児童一人一人の実態に応じた助言を行う。	研究推進委員会を中心に、各学年や教科で学力定着度調査の結果や実態を分析し、児童の実態を把握することができた。把握した内容をもとに、教材を選択したり、展開を工夫したりして、児童一人一人に応じた助言を適宜行うことができた。	B	
	学力の基礎・基本の定着を目指すために、上神スタンダードの指導を徹底し、学習規律の定着を図る。	上神スタンダードをもとに指導を行い、学習規律の定着を概ね図ることができた。引き続き、教職員で共通理解をもった指導を行い、学習規律と学力の基礎・基本の定着を図っていく。	B	
	学力の基礎・基本の定着を目指すために、指導法や児童の実態に合わせて、1人1台のタブレット端末を日常的に有効活用する。(ロイロノートの活用・・・作品作成、意見の共有、振り返りカードなど)(児童の作品作成の録画)(教員の評価資料としての活用)	タブレット端末の有効活用を図るために、ロイロノートを意見の共有や、振り返りカードの作成、教員の評価資料としての活用など様々な場面で扱うことができた。引き続き、有効活用して、児童の学力定着を図っていく。	A	
②話し合い活動の充実	i-Checkの「感動体験」のカテゴリーの質問「友だちの意見を聞いて新しいことに気付いたり、自分の考えが深められたりして、勉強って面白いと思うことがありますか」に対し、肯定的な回答をする児童が80%以上いる。	2年・・・84.6% 3年・・・72.3% 4年・・・75% 5年・・・51% 6年・・・76% 2年生は目標である80%を上回っていた。他学年においては、80%に満たなかったが、各学年の半数以上の児童は肯定的にとらえていた。	B	今回の結果から、友だちとの学習に対して肯定的にとらえている児童が多くいる一方、その良さを感じられていない児童がいることも分かった。 今後、学習の中で児童が対話したり、協働して取り組んだりする活動の充実を図るために話し合い活動を取り入れるなど、意図的・計画的に実践することを継続する。そして、学び合うことの良さを感じさせるために、教材選びや対話をさせる際の工夫を行っていく。
	学習の中で、児童が対話したり、協働して取り組んだりする活動の充実を図るために、毎月話し合い活動を取り入れるなど、意図的・計画的に実践する。	学習の中で、児童が対話したり、協働して取り組んだりする活動の充実を図るために、毎月話し合い活動を取り入れるなど、意図的・計画的に実践することが概ねできた。	B	

A=十分達成できた B=おおむね達成できた C=未達成

令和7年度 学校評価 品川区立上神明小学校

評価項目2 人間性や社会性に関すること

重点目標		○グローバル社会で生きていくための資質・能力を育成し、自他ともに尊重し合える豊かな心を育む。 【規範意識】 ・市民科学習や日常の生活指導を通して、きまりやルールを守ることの大切さを指導し、学校生活の充実を図る。 【友達との関わり】 ・授業や行事で、友だちと関わる場面を意図的・計画的に設定し、児童の自己理解・他者理解を図る。		
評価指標	最上段：成果指標	最上段：成果指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
	2段目以降：取組指標	2段目以降：取組指標の達成状況の説明		
① 規範意識	i-Checkの「規範意識」のカテゴリーにおいて、80%以上が肯定的な評価をしている。	2年…89% 3年…82% 4年…88% 5年…82% 6年…78% 2～5年生は、80%以上が肯定的な回答であった。	B	今回の結果から、各学年、規範意識の設問に関して、概ね肯定的な回答であったことが分かった。これは、市民科学習や、上神スタンダードを活用した日常の生活指導を通して、集団生活や社会生活におけるきまりやルールを守ることの大切さを指導してきた成果であると考えられる。今後も継続した指導を行い、児童の規範意識を向上させていく。
	児童の規範意識を高めるために、市民科学習や日常の生活指導を通して、集団生活や社会生活におけるきまりやルールを守ることの大切さを指導する。	市民科学習や、上神スタンダードを適宜活用した日常の生活指導を通して、集団生活や社会生活におけるきまりやルールを守ることの大切さを指導した。	B	
② 友達との関わり	学校風土D調査において、「この学校の児童生徒は、学校の活動を友だちと一緒にすることを楽しんでいる」などの子ども同士の関係を表す項目の数値の平均が、概ね達成できたと見られる数値である50を上回っている。	「この学校の児童生徒は、学校の活動を友だちと一緒にすることを楽しんでいる」の設問の数値は、「53、8」で50を上回っていた。また、子ども、教師の区別なく、学校における「積極的で良好なかかわり」を表す数値も、「55、2」で、50を上回っていた。	B	今回の結果から、子ども同士、また教師と子どもとの関係が良好であることが分かった。これは、日々の授業や異学年交流、保幼小連携、学校行事などで、意図的・計画的に交流する場を設定し、継続して取り組んできた成果と考えられる。引き続き取り組み、良好な関係を築くことができる学校をつくっていく。
	児童の自己理解・他者理解を深めるために、授業や行事で、友だちと関わる場面を意図的・計画的に設定する。	日々の授業でグループワークを行ったり、異学年交流や、保幼小連携、学校行事などで、友だちと関わる場面を意図的・計画的に設定し、児童の自己理解・他者理解を図ることがおおむねできた。	B	

A=十分達成できた B=おおむね達成できた C=未達成

令和7年度 学校評価 品川区立上神明小学校

評価項目3 体力・健康に関すること

重点目標		○自ら健康づくりをする子どもを育成し、「知」「徳」「体」のバランスの取れた児童を育てる。 【体力】 ・児童に運動することの楽しさを味わわせたり、運動の日常化を図ったりするために、2週に一度程度、ワンミニッツエクササイズに取り組む。 【心の健康】 ・アセスメントツールを活用して児童の様子を把握し、日々の授業や生活の中で児童によりそった指導を行う。 【安全】 ・生活・交通・災害安全の指導と、安全学習と管理を計画的に行っていく。		
評価指標	最上段：成果指標	最上段：成果指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
	2段目以降：取組指標	2段目以降：取組指標の達成状況の説明		
① 体力	新体力テストにおいて、全学年、男女とも都の平均を上回る。	公表・分析でき次第記載予定	B	公表・分析でき次第記載予定
	児童に運動することの楽しさを味わわせたり、運動の日常化を図ったりするために、2週に一度程度、ワンミニッツエクササイズに取り組む。	ワンミニッツエクササイズだけでなく、日々の体育の授業でも、児童に運動することの楽しさを味わわせたり、運動の日常化を図ったりすることが概ねできた。		
② 心の健康	学校風土D調査「この学校では、イライラしても上手に気分転換したり、ストレス解消したりする方法を学んでいる」の設問の数値の平均が、概ね達成できたと見られる数値である50を上回っている。	「この学校では、イライラしても上手に気分転換したり、ストレス解消したりする方法を学んでいる」の設問の数値の平均は、「56、8」で、50を上回っていた。	A	今回の結果から、児童自身が心の健康を保つための方法を学ぶことができていたことが分かった。これは、デイケンやNiCoLiなどのアセスメントツールを活用して児童の様子を把握するとともに、授業（セカンドステップ、市民科、保健、特別支援教室など）や生活の中で、児童が安心して学校生活を送れるよう継続して指導してきた成果と考えられる。引き続き取り組み、児童が安心して学校生活を送れるようにしていく。
	児童が安心して学校生活を送れるよう、デイケンやNiCoLiなどのアセスメントツールを活用して児童の様子を把握する。また、授業（セカンドステップ、市民科、保健、特別支援教室など）や生活の中で児童によりそった指導を行う。	デイケンやNiCoLiなどのアセスメントツールを活用して児童の様子を把握することができた。授業（セカンドステップ、市民科、保健、特別支援教室など）や生活の中で、引き続き指導を行い、児童が安心して学校生活を送れるようにしていく。	B	
③ 安全	学校風土D調査において、「この学校の児童生徒は、この学校にいて安全だと感じている」などの安全を表す項目の数値の平均が、概ね達成できたと見られる数値である50を上回っている。	「この学校の児童生徒は、この学校にいて安全だと感じている」などの安全を表す項目の数値の平均は、「56、3」で、50を上回っていた。	B	今回の結果から、学校は安全な場所であると児童が感じていることが分かった。これは、学校安全指導計画に基づき、生活・交通・災害安全や、安全学習と管理を計画的に行うことができた成果と考えられる。引き続き取り組み、児童が安全に学校生活を送れるようにしていく。
	児童が安全に学校生活を送れるよう、学校安全指導計画に基づき、生活・交通・災害安全の指導と、安全学習と管理を計画的に行う。	学校安全指導計画に基づき、生活・交通・災害安全の指導と、安全学習と管理を計画的に行うことができた。児童が、より安全に学校生活を送れるよう、引き続き指導していく。	B	

A＝十分達成できた B＝おおむね達成できた C＝未達成

評価項目4 いじめの防止の取組に関すること

重点目標		○上神明小学校いじめ防止対策基本方針のもと、諸調査の分析や情報共有を丁寧に行い早期発見、早期解決に努める。また、自尊心や自他の尊重を図るための交流活動を通して、温かい心を育てる。 【いじめの根絶】 ・市民科学習や日常生活指導を通して、いじめの未然防止を図る。また、いじめDアンケート、学校風土調査、生活指導夕会等を行い、学級や児童の実態把握に努め、いじめの早期発見・早期対応に努める。 【人権教育】 ・日常での人権に関わる場面を取り上げ、市民科等での授業や生活指導を行い、お互いを尊重することの大切さを指導する。		
評価指標	最上段:成果指標	最上段:成果指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
	2段目以降:取組指標	2段目以降:取組指標の達成状況の説明		
① いじめ根絶	学校風土D調査の学校における「安心・安全」と「積極的で良好なかかわり」の合計得点が、概ね達成できたと見られる数値である50を上回っている。	「安心・安全」の数値は、「56、3」、「積極的で良好なかかわり」の数値は「55、2」という結果であった。また、合計得点として算出された数値は「55、9」で、50を上回っていた。	B	今回の結果から、児童にとって、学校は安全で、良好なかかわりができる場所であると感じていることが分かった。これは、いじめの根絶、また未然防止を図るため、市民科学習や日常生活指導を行うとともに、生活指導夕会、特別支援教育校内委員会を毎週実施したり、学校いじめ対策委員会、不登校対策委員会を月1回実施したりして、「いじめにつながる可能性のある事案」を敏感に察知し、組織的に対応してきた成果と考えられる。引き続き取り組み、児童にとって、安心・安全な学校生活を送れるようにしていく。
	いじめ根絶のために、市民科学習や日常生活指導を通して、いじめの未然防止を図る。また、生活指導夕会、特別支援教育校内委員会を毎週実施したり、学校いじめ対策委員会、不登校対策委員会を月1回実施したりして、「いじめにつながる可能性のある事案」を敏感に察知し、組織的に対応する。	いじめの未然防止を図るため、市民科学習や日常生活指導を行った。また、生活指導夕会、特別支援教育校内委員会を毎週実施したり、学校いじめ対策委員会、不登校対策委員会を月1回実施したりして、「いじめにつながる可能性のある事案」を敏感に察知し、組織的に対応してきた。引き続き取り組み、いじめ根絶を目指す。	B	
② 人権教育	学校風土D調査の「この学校の児童生徒は、お互いのことを尊重している」の設問に対する数値の平均が、概ね達成できたと見られる数値である50を上回っている。	「この学校の児童生徒は、お互いのことを尊重している」の設問に対する数値の平均は、「54、9」で、50を上回っていた。	B	今回の結果から、児童はお互いを尊重し合っていると考え、日々学校生活を送っていることが分かった。これは、日常での人権に関わる場面を取り上げ、市民科や学級活動での授業、日頃の生活指導で繰り返し指導してきた成果と考えられる。今後も、指導を継続して行うとともに、指導方法をさらに工夫して、児童が互いに尊重し合える学校をつくっていく。
	児童同士が互いに尊重することを大切にできるように、日常での人権に関わる場面(自身が望まないあだ名で呼ばれることなど)を取り上げ、市民科等で授業を行う。また、日頃の生活指導で繰り返し指導する。	日常での人権に関わる場面(自身が望まないあだ名で呼ばれることなど)を取り上げ、市民科や学級活動での授業、日頃の生活指導で繰り返し指導してきた。今後も、指導を継続して行っていく。	B	

A=十分達成できた B=おおむね達成できた C=未達成

評価項目5 (特色ある教育活動に関すること)

重点目標		○特色ある教育活動を展開して、豊かな情操を育てる。 【自己肯定感】 ・児童同士および保小交流や中学校での体験を通して、児童がやり甲斐や自信をもてるようにする。 ・小規模校である特色を生かし、自己肯定感や思いやりの心を育てるとともに、リーダーシップを育成していく。 【個を大切にしたい教育】 ・友だちとの交流や、児童が活躍できる場を設定した授業を実践したり、ほほえみ学級との交流活動や共同学習を行ったりすることを通して、児童の自己有用感を高めていく。 ・全教員がきめ細かい児童理解に心がけるとともに、スクールカウンセラーを活用し、児童と保護者の教育相談を充実させる。また、巡回相談員、心理士、専門家による観察を生かしたきめ細かい対応をする。		
評価指標	最上段：成果指標	最上段：成果指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
	2段目以降：取組指標	2段目以降：取組指標の達成状況の説明		
① 自己肯定感	i-Checkの自己肯定感の項目において、80%以上の子どもが肯定的な評価をしている。	2年…86% 3年…81% 4年…89% 5年…75% 6年…79% 全学年、80%の近似値の結果であった。	B	今回の結果から、各学年、自己肯定感に関する設問に対して、概ね肯定的な回答をしていることが分かった。これは、他学年や保幼小連携の取組や、小規模校の特色を生かした教育活動を行ってきた成果であると考えられる。今後も継続した指導を行い、児童の自己肯定感のさらなる向上を図る。
	児童の自己肯定感を高めるために、なかよし班活動や保小交流で、他学年や保育園児と交流する。また、児童が進学に向けて、やり甲斐や自信をもてるようにするために、中学校での授業体験や部活動体験を行う。	児童の自己肯定感を高めるための取組として、なかよし班活動や保小交流で、他学年や保育園児と交流したり、中学校での体験活動を行ったりすることができた。今後も継続して取り組んでいく。	B	
	児童の自己肯定感を高めるために、小規模校の特色を生かし、児童のリーダーシップを養う。(学校行事、なかよし班活動、クラブ、委員会活動)	小規模校の特色を生かした学校行事の設定や、なかよし班活動、クラブ活動、委員会活動を行い、児童のリーダーシップを養うことが概ねできた。児童の自己肯定感をさらに高めていけるよう、継続して取り組んでいく。	B	
② 個を大切にしたい教育	学校風土D調査「この学校の児童生徒は、一人一人のちがいを大事にされている」の設問に対する数値の平均が、概ね達成できたと見られる数値である50を上回っている。	「この学校の児童生徒は、一人一人のちがいを大事にされている」の設問に対する数値の平均は「54、1」で50を上回っていた。	B	今回の結果から、児童は一人一人のちがいを大事にされていると感じながら、日々学校生活を送っていることが分かった。これは、友だちとの交流や、児童が活躍できる場を意図的・計画的に設定した授業、交流・共同学習を実践したり、スクールカウンセラーを活用した児童および保護者の教育相談の充実を図ったりしてきた成果と考えられる。今後も、継続して取り組み、個を大切にしたい教育を実践していく。
	個を大切にしたい教育を実践するために、友だちとの交流や、児童が活躍できる場を意図的・計画的に設定した授業を実践したり、ほほえみ学級との交流活動や共同学習を行ったりする。	友だちとの交流や、児童が活躍できる場を意図的・計画的に設定した授業を実践したり、ほほえみ学級との交流活動や共同学習を行ったりすることが概ねできた。	B	
	個を大切にしたい教育を実践するために、全教員がきめ細かい児童理解に心がけるとともに、スクールカウンセラーを活用し、児童と保護者の教育相談を充実させる。また、巡回相談員、心理士、専門家による観察を生かしたきめ細かい対応をする。	スクールカウンセラーを活用することで、児童および保護者の教育相談の充実を図ることが概ねできた。今後、さらなる活用を図り、個を大切にしたい教育をより充実させていく。	B	

A=十分達成できた B=おおむね達成できた C=未達成